

アンケート調査（案）に対する意見一覧（生物多様性関連）

1. 金本委員ご意見

意見内容	事務局コメント
<p>全体像として、回答者の理解度を調べたい。脱炭素、気候変動、SDGs、生物多様性、外来生物、レッドデータブックなど、キーワードとなる用語について、どの程度理解しているかを聞きたい。（このアンケートに答えてくれるような関心の高い市民の認知度を探り、全体の理解度を推定する。関心のない市民の理解度は火を見るより明らかなので）</p> <p>回答者情報についての問の中に、用語認知度の問を組み込む。どの用語を盛り込むかは、委員会にて検討したい。</p>	<p>検討いたします。</p>
<p>大項目 2-1 「水辺の保全」「緑の保全」「身近な自然の維持」など、かなり大枠の表現になっている。水辺を「多摩川や湧き水などの水辺の保全」にする、緑を「草地やはらっぱの保全」・「雑木林や崖線の保全」というように具体的に変更する。</p> <p>府中市民がどのような環境を大切に考えているかを探る。逆に市民の関心が及ばず、理解を深めなければ消えてしまう危機的な環境の有無も探りたい。</p>	<p>「基本施策」の設定については第3回生物多様性部会の中心議題としているため、部会においてご議論いただきたいと思います。</p>
<p>大項目 2-1 高らかに謳っても、実現しないことが多い。これらを実現するための不可欠な財源として、「みどり税」の導入など、市民がどれほど当事者意識があるかを測りたい。</p> <p>「必要な財源確保のためのみどり税の導入」を入れる。</p>	<p>新税の導入を想定しているかのように受け止められかねないため、アンケートに盛り込むことは困難ですが、施策の検討の中で議論できればと考えます。</p>

【資料3】

<p>大項目 2-1 保全・維持だけでなく、市内でも都市化の激しい地域においては、新たな環境創出・復元も不可欠である。創出・復元の項目を追加する。 「都市化の激しいエリアに生物の生息空間を創出・復元する」を入れる</p>	<p>「基本施策」の設定の議題の中でご議論いただきたいと思います。</p>
<p>大項目 6-1 ~ の対策では、これまでとあまり変わらず、進歩が望めない。連携、協働の必要性はどこも認識しているが、やり方が分からず進んでいないケースが多い。むしろ、環境保全活動センターの中間支援組織化など、具体的な施策が必要。そのため、「中間支援団体の認知度を図る項目がほしい。 「協働を促進、ニーズをマッチングする中間支援組織の育成」を盛り込む</p>	<p>検討いたします。</p>

2. 鳴原委員ご意見

意見内容	事務局コメント
<p>(1)基本方針1の で「特定外来生物等への対応」で対応ではなく、「特定外来生物等の駆除」と具体的にわかりやすく記述した方がよい。</p>	<p>外来生物に対する対策は駆除対応のみではなく、「持ち込まない」「拡げない」といったことを目的とした対策も視野に入れているため、駆除に限定しない方針の設定が望ましいと考えます。</p>